

大塚いちおさんが生み出した！

へんてこで特別な作品たち

大塚さんがこれまでに手がけたキャラクターやイラストレーションは、そのユニークな形や色合いなどから、多くの人を引き付けています。展覧会に先立ち、魅力的な作品の一部をご紹介します。

大塚さんの世界を
私をご紹介します！



小林古径記念美術館
伊藤 学芸員

NHK Eテレ『みいつけた！』



©NHK・NED
左からサボさん、スイちゃん、コッシー

4歳ごろからの幼児が、楽しみながら学べる教育的エンターテインメント番組『みいつけた！』のキャラクターデザイン・セット・衣装・タイトルロゴを担当しました。平成23(2011)年には、当番組が教育コンテンツの国際コンクール「日本賞」で幼児向けカテゴリーの最優秀賞を受賞しました。



『コッシー』誕生秘話



番組企画時、キャラクターを作ることになった大塚さん。子どもの頃、母親とバスで買い物に行ったときに車窓から見た「バス停の椅子」の記憶から着想を得て、『コッシー』を生み出しました。

上越妙高駅 お出迎えキャラクター『ウェルモ』

会いに来てくれたら
うれしいもぐなー。



北陸新幹線「上越妙高駅」開業当日に来訪客をお出迎えするイメージキャラクターとして、平成27(2015)年3月14日に誕生しました。当初は「モグラくん」と呼ばれていましたが、愛称を募集し、英語で「ようこそ」を意味する「ウェルカム」と「モグラ」を足して『ウェルモ』と名付けられました。



◀上越妙高駅自由通路で皆さんをお出迎えしています。
※9月4日⑧～11月24日⑩の間は小林古径記念美術館にお出かけします。

月刊情報誌『ハルメク』表紙



50代からの女性が読者の生活情報誌『ハルメク』の表紙も、大塚さんが手がけています。これまでにデザインした表紙の数は、令和6年7月でなんと100号に！

毎月、色彩豊かで季節感のあるデザインが読者を明るい気持ちにさせてくれます。本誌中のコーナー「表紙のココロ」には、大塚さんが表紙に込めた想いがつづられています。



特集 上越市出身イラストレーター・アートディレクター

大塚いちおの世界

皆さんは、NHK Eテレで放送中の幼児向け番組『みいつけた！』を見たことがありますか。その中に出てくる、子どもから大人まで親しまれている愛らしいキャラクターたちの生みの親が、本市出身の大塚いちおさんです。

今号では、小林古径記念美術館での企画展開催に合わせて、大塚さんが生み出してきた作品の一部や創作活動の原点、ふるさと上越への想いなどについてご紹介します。

●大塚いちおさんの略歴

西暦	年齢	主な出来事
1968	0歳	12月9日、上越市鴨島に生まれる。
1987	18歳	県立高田北城高校を卒業後、デザインの道へ進むため上京。
1989	21歳	80年代にイラストレーターの登竜門として知られていた雑誌『イラストレーション』の公募展「ザ・チョイス」に入選。
2005	37歳	『GIORGIO GITAIGO J' ISHO』(ピエ・ブックス)で東京アートディレクターズクラブの「東京ADC賞」を受賞。
2009	41歳	NHK Eテレ『みいつけた！』のキャラクター、セット、衣装、番組ロゴのデザインなど番組全体のアートディレクションを手がける。
2012	44歳	映画監督・是枝裕和氏との共著『クーナ』(イースト・プレス)を出版。
2014	46歳	Jリーグ川崎フロンターレの「ファミリーアートディレクター」に就任。
2017	49歳	上越妙高駅お出迎えキャラクター『ウェルモ』誕生。
2018	50歳	NHK連続テレビ小説『半分、青い。』オープニング映像のイラストをデザイン。
2020	52歳	ニッポン放送のキャラクター誕生。
2022	54歳	BSN新潟放送メインキャラクター『ハレッタ』誕生。
2023	55歳	脚本家・宮藤官九郎氏との共著『グローイングアップ』がNHK出版より出版される。

大塚いちおさん特別インタビュー

ワクワクの原点と ふるさとへの想い



絵を褒めてもらったことが
この道を目指したきっかけに

子どもの頃はどちらかという生活で、夏は野球をしたり、冬にはよく金谷山にスキーに行っていました。絵は物心が付く前からよく描いていたと思います。

小学校では低学年の頃から、描いた絵を褒めてもらっていた記憶がありますね。5年生になるときに引越して東本町小学校に通うことになったのですが、僕が描いた絵を見てみんなが驚いてくれたり、「すごいね」と言ってくれたりということがあって。あるとき、漫画を描いていた数人のグループから「一緒に漫画を描かない？」と誘われ、友達の家に集まって一緒に漫画を描くようになった。

それ以降、自分の中で絵を描くことの比重がだんだんと増していき、中学校から高校卒業までの6年間は美術部に入って、夢中になって絵を描いていましたね。

一度決まった就職先を断って
一念発起しイラストレーターへの道に

高校卒業後も好きな絵を描き続けたいと考え、絵に近いところで、仕

議論を重ねて生まれたものです。

皆さんおなじみの『ウエルモ』も、今から9年前、平成27(2015)年3月の上越妙高駅開業当日にボランティアの皆さんが着用する、Tシャツなどのデザインを依頼されたのがきっかけでした。ただグッズを作るのではなく、「駅に来た人を出迎えるキャラクターがいれば、より駅に愛着を持ってもらえるのでは」との思いから、『ウエルモ』が生まれました。

僕が好きなコーヒーで
高田の町家を元気に

『ウエルモ』は上越妙高駅のお出迎えキャラクターですが、駅以外にも皆さんから親んでもらえる場所があったらいいなと考えていました。また、北陸新幹線の開業によって、以前よりも頻繁に上越に来るようになってから、子どもの頃に慣れ親しんだ雁木通りの町並みに、だんだんと空き家や空き地が目につくようになってきたのを寂しいなと思っていました。雁木通りがにぎわうために僕ができることはないかと考えたとき、『ウエルモ』が店長を務めるコーヒースョップを開くことを思いつき

事として成り立っているものは何かと考えたときに思い浮かんだのが、『デザイン』や「イラストレーター」でした。

東京のデザイン専門学校に進学したのですが、親には「卒業したらデザイナーになって就職して、ちゃんとした会社で働くよ」と言いながら、本心ではイラストレーターとして独立できたかと考えていました。

2年生の秋には早々と就職先が決まっていたのですが、就職先から「春からよろしくね」と言われた瞬間から、「あれ？本当はイラストレーターになりたかったんじゃないか？」という思いが強くなり、結局、決まっていた就職先にお断りの連絡をして、研究生として1年間、専門



大塚さんが手がける「DIGMÖG COFFEE」(仲町4)。キャラクターグッズやオリジナルのブレンド豆も購入でき、おすすめは浅煎りの「モグモグ」ブレンドと、深煎りの「ディグディグ」ブレンドだそう。

学校に残ることとなりました。当然、就職先からはとても怒られました。決めた以上は1年以内に結果を出さなければと思い、必死に頑張りました。僕はラッキーなことに、イラストレーターへの登竜門的なコンテストで早くに入選を果たすことができ、それが自信にもなりました。

この入選をきっかけに少しずつ仕事をもらえるようになりましたが、25歳で企業のPR誌の表紙を1年間描く仕事をいただくまでは、面白そうなお仕事を作っている事務所やア

トディレクターを探してはアポイントメントを取って絵を見てもらいに行くというのをしながら、アルバイトも続けていました。僕は仕事が欲しいから絵を描いているというよりは、純粋に絵が好きで描いているという感じだったので、それが伝わったのか、訪ねて行った先の人と仲良くなるのが多かったんです。そうした縁から、表紙の仕事もいただけたのだと思います。

仕事をやる上で心がけていることは
「自分が楽しむ」こと

皆さんにワクワクや元気を与えるのが僕の仕事だと思っっているので、仕事をする上では、まず自分が楽しむことを心がけています。依頼を受けて仕事をするときも、ただ依頼どおりに描くのではなく、「こっちはほうがより喜んでもらえると思いますか、どうですか？」とすすんで提案したり、クライアントと意見を交わしたりしながら作り上げていっています。

NHK Eテレの『みいつけた!』も、番組名も内容もまだ決まっていなかった段階から声をかけてもらい、NHKのスタッフや幼児心理学の専門家など、大勢の関係者と1年以上

夢を追う上越の子どもたちを
応援したい

市内でもいくつか仕事をさせてもらっています。最近では、上越高校ダンス部のチームロゴや横断幕をデ



上越市内のアトリエでの一枚。多くの人に親しまれる作品の創作は、市内でも行われている。

全国大会の本番前に、大塚さんから作っていただいた横断幕を見て笑顔になりました！



上越高校ダンス部の皆さんと大塚さんがデザインした横断幕。おそろいのTシャツには、チームロゴがあしらわれている。

ザインさせてもらいました。上越高校のサッカー部のイベントでダンス部の皆さんのパフォーマンスを見に行ったのがきっかけで、後日顧問の先生から「全国大会に向けて、チームロゴや横断幕をデザインしてもらえませんか」と依頼がありました。お話をいただいたとき、全国大会という素晴らしい舞台に向かって頑張っているみんなの姿と、イラストレーターになることを夢見て上京した若い頃の自分とが重なり、上越市出身者としてみんなをぜひとも応援したい、少しでも力になりたいという思いで依頼をお引き受けしました。これからも、夢を叶えるために頑張っている若い人が前向きな気持ちになれるように、何かお手伝いできることがあれば関わっていききたいと思えます。

大好きなふるさとでの展覧会にぜひお越しください

普段地元を離れて暮らしている僕からすると、上越ってすごく豊かなまちだと思うんです。四季がはっきりしていて、自然の移ろいを感じる事ができますし、米、魚、野菜やお酒はどれもおいしいです。また山菜などの季節のものも都会ではなかなか食べることができません。上越に住んでいると当たり前のことかもしれないですが、とても誇らしいことだと思います。

今回、そんな大好きな上越で展覧会を開催することになり、とてもうれしく思っています。これまで僕がワクワクしながら描いてきた、「へんてこで特別」なキャラクターやイラストなどの作品たちが美術館のあちこちにたくさん展示されるので、ぜひ足を運んでみてください。



大塚いちお展 **へんてこで特別!**

これまでに大塚さんが手がけた作品を美術館いっばいに展示します。大塚さんの生み出したへんてこで特別な世界をお楽しみください。

所申問 小林古径記念美術館 (高田城址公園内、☎025-523-8680)

時 9月14日⑤~11月24日⑥ 午前9時~午後5時

※11月14日⑥~24日⑥は午後7時まで延長

休館日=月曜日(祝日の場合はその翌日)

費 入館料=一般700円、小・中・高生350円(幼児、市内小・中学生は無料) **ホームページ**



美術館



関連イベント ※その他のイベントはホームページをご覧ください。

①トークセッション

時 9月22日⑥・⑦ 午後1時~

講 大塚いちお氏、中村憲剛氏(元プロサッカー選手)

定 70人(申込順) **費** 無料(入館料別途)

申 9月4日⑥以降にメールで申し込み

②デザインワークショップ

時対 10月13日⑥

○小学生=午前10時~、○中学生以上=午後2時~

講 大塚いちお氏

定 各回10人(申込順) **費** 1,000円(入館料含む)

申 9月10日⑥以降にメールで申し込み

③アーティストトーク

展示室をめぐりながら、作品や制作について語っていただきます。

時対 10月26日⑤・⑥ 親子=午前11時~、○一般=午後2時~ **講** 大塚いちお氏 **費** 無料(入館料別途)

イベントの申し込み方法

①②のイベントは事前申し込みが必要です。

次の①~④を明記の上、メールで申し込んでください。

1 イベント名 **2** 氏名 **3** 電話番号

4 子どもの場合、学年

▶ 申し込み先…kokei-koza@city.joetsu.lg.jp